

大橋 秀行

(民主クラブ)

農業生産体制は

問 東郷ダムの経過と現状と課題について、農林水産省の農業用ダムの総点検結果を含めて伺う。

答 昨年、農林水産省所管の農業用ダムの総点検において、東郷ダムは、想定を大きく上回る浸透があるダムに位置づけられており、「かんがい用水確保のため、ダムの改修やそれ以外の水源確保の方法について、調整に向けた選択肢を整理し、関係機関と調整を図りながら、課題整



畑地散水リールマシン

理に向けた取り組みを行う」とされているが、現在のところ、具体的な協議はされていない。

問 今後完成に向けての努力は。

答 本市農業に必要なかんがい用水の安定的な確保のため、東郷ダムの完成に向けて、中富良野町、富良野土地改良区など団体と連携し、国への要請を行っていく。

戸別所得補償制度は

問 戸別所得補償制度の導入による影響とその試算額は。

答 本市のように生産調整が進み、野菜などへの転作率が高い地域では、農業者への交付金額が大幅に減ることが想定される。現在のところ、試算はしていない。

問 次年度に向けての対象農産物は。

答 平成23年度予算の概算要求段階には、制度の基本的な骨格が出来上がっている。早期の制度設計とその周知について国に要請していく。

【その他の質問】

◆農村部の市道について

◆過疎対策について

岡本 俊

(市民連合)

市町村合併に対する基本姿勢は

問 市長は平成18年第2回定例市議会の市政に対する所信表明で、今後4年間の自治体運営に

対する基本姿勢において、今後は富良野圏域1市3町1村の最終出口が合併に向かう土壌づくりを推進すると述べているが、改めて富良野沿線5市町村の合併に対する基本姿勢を伺う。

答 富良野広域連合において、現在、新たな取り組みとして、国民健康保険事業と介護保険事



東郷ダム

業について調査研究を進めている。広域連合で乗り越えられない課題も明らかになってきている。市町村の住民の意向を踏まえて自主的に判断するものであり、自治体同士の一体感・共通感・信頼感が必要であり、合併の土壌が醸成して初めて、合併の機運が高まると考える。

東郷ダムに対する今後の姿勢は

問 国営東郷地区として昭和47年に着手し平成14年に事業名を富良野地区と変更をしたが、いまだ完成になっていない。ダムの完成を求めるのか、水利権の確保を求めるのか伺う。

答 地域農業に必要な水を確保することが基本と考えており、それを達成する施設として完成に向けて要望していく。

問 市の負担についての考え方と対応について伺う。

答 負担金は、総額で10億4千5百万円を想定している。

事業完了後に償還することになるが、事業完了までには10年ほどかかると聞いていたので支払方法については検討したい。